

# 婦人と子ども

第十八卷第六號

大正七年六月四日發行

## 幼稚園の此頃

倉 橋 惣 三

次の記事は去月廿五日東京女子高等師範學校内作業館に於て倉橋主事が同校附屬幼稚園へ通園する幼児の保護者の前にて爲せる説話の概略を筆記せるものなり

先日新たに入園なされたお子さん方の保護者の方々にお集まりを願ひました時にも一度お願ひして置きました通り、お子さん方がお宅にお歸りになつた時に「今日は幼稚園で何をしましたか」といふ様なことをお子さん方にお尋ねにならないことを今日も重ねてお願ひして置きたいと思ひますその理由はお子さん方をおあづかりして居ります私共の方では無論いろいろと工夫もし、頭も痛めて幼稚園の一日を如何に面白く幸福に送るべきかと苦心致すのでありますが、お子さん方の方からは極めて平氣に、不用意に幼稚園の一日といふ者が送られることを望んで駄まないからであります。

「幼稚園で何をした」といふことは教育に熱心な家庭の方々の必ず聞くことを望まれることに相違ありません、しかし私共はお子さん方の教育のためその質問を直接お子さん方自身の上へでなく私共の上へ下されることを望むのであります。尤もお子さん方の中には別にお聞きにならなくとも自から進んで大いに話される方もあります。それは別に妨げません、たゞ家庭の方々の方から促して話をさせ、而してそれがために幼児の心の中に幼稚園といふものを一種際立つた特別な生活をする場所といふやうな感じを起させたくないのであります。

「幼稚園で何をした」といふことをお子さん方にお聞き下さらないやうにと申しますと、私共がお子さん方にそつと何か悪いことをして置いてそれを話されるといけないので、つまり幼稚園の先生が抓つたとか睨めたとかいふことを一々家庭へ告口をされないやうに體のいゝ口止めをして居るやうに誤解されても仕方がありません。そこで父兄の方々からの質問はいくらでも喜んでお答へもし共々御相談もし、力を協せて行きたいと思ふのであります。

さて平常お子さん方から幼稚園の模様をお聞き下さらないやうにとお願ひしてありますので時々今日のやうな會合に於て、私から一通り幼稚園の模様をお話申上げてみやうと思ふのであります。

幼稚園とは何ういふ性質のものであるかといふやうなお話はお手許に差あけてある冊子を讀んでいただくことゝして（前號本誌掲載の倉橋主事の「幼稚園は如何なる處か」参照）今日はさういふ一般的なお話は歇めます。さて當校の附屬幼稚園は當師範學校の研究場所となつて居りますので實驗のためにいろいろ新しい學理なり方法なりを試し

てみます、従つて當園の保育は形式の上には常に必ずしも一定してはゐないのであります。それで今日は四月の學期始めから只今まで當幼稚園で行ひましたことの概略を後から振返つてみて御報告致すことにしたのであります。

お茶の水の幼稚園はツイこの間までは八時始めでありましたが此頃では八時半始めといふことになつて居ります。この始業時間といふことに就ては一寸お話申して置かなければならないことがあります。始業時間の八時半といふことは八時半前後から保姆の方々がお子さんを玄關へ出て、庭へ出て、或は門まで出て迎へるといふことなのであります。お子さんは受持の保姆の方に會つて、「お早う」といひます。これが却つ大切なことなのであります。あるお子さんに對してはある保姆さんでなければならぬといふ位にまで親しくなつてゐるのでありますから朝うまく會ふといふことは非常に大切なことなのであります。これが若し遅れて九時半となり十時となりますと保姆の方々も既に來られたお子さん方と遊んだり何かしなければならぬために遅參したお子さんをお迎へに出る

ことが出来ません。さうすると折角その組の先生に會ふことを楽しみにして來られたお子さんは先づ大いに手持無沙汰をお感じになるに違ひありませんこの手持無沙汰の感じが一日の保育の上に非常に悪く影響して行くことを私共は怖れるのであります。八時半始めといふことはその時間が來ると鐘を鳴らし遊戯なり唱歌なりを始めるといふのではありません、それ故お子さん方は八時半といふ時間を正確に考へておいでにならないかも知れません。而してそれでよろしいのであります。しかし附添の方にはよくこのことを心得て居ていたゞきたいのであります。

それでお子さんが幼稚園へおいでになつたとして、それから何うするかと言ひますと、先づ一番奥にある大きい室へ駆けて行つて帽子を釘に掛けお辨當を持つて各自の室に集ります。こゝで始めてお子さんは自分は幼稚園へ來たといふ感じを得るわけでありませう。斯くて幼稚園へおいでになつたお子さんはそのまゝ庭へ出て戸外で遊ばれることもあります、疊み紙といつて紙をいろ／＼に折られることもあります、粘土といふやわらかい土

の一角たまりをもつてお馬を拵へたりお團子を拵へたり、時にはかなり六ヶ敷い電車などをも造られることがあります。斯ういふ遊びをしてゐる時には極めて靜かに一生懸命自分の仕事に熱中されることを私共は望んで歇まないであります。それで御承知の通り一組の定員は三十名といふことになつて居りますが、室の中の遊びをなるべく集中した氣の散らないものにするために、一組の幼児を三つ位に分けて十人位づゝ室内に止め、その他の幼児は室外で遊ばせて置くやうな方針を取ることでもあります。これを外部から一寸見ますとある子供だけが特別な教育をうけてゐるやうで、不公平、尠くも不均一と見えるのであらうと思ひます。しかしこれはたゞ表面だけを見た見方でありまして、私共の方では一組三十人だと幼児は他の幼児からいろ／＼の影響をうけて落附いて一事に没頭することが出来ません。でもよゝそみをするな、物を言つてはいけなさいといふやうに一々叱りつけながらならば兎も角、そんなことをせず三十人を靜かに纏めて置くことは却々骨が折れるのであります。同じ組のある幼児が室の中で疊み紙

をし、他の幼児が室外で遊んでゐるといふやうなことは全くこの氣を散らさせまいといふ顧慮から來てゐるのであります。さてこの室外で遊ぶお子さん方は先生と外へ遊びにゆくことなどもありません、さうするとその室に残されたお子さんはお宅へお歸りになつて「今日は誰さんと誰さんとが先生と外へ遊びに行つたが私は行かなかつた」といふやうなことを申さるゝかも知れません。さういふ感じを持たせるのは既に私共にぬかりがあるのかも知れませんが、しかしお子さん方の中の幾人かが依怙の取扱を受けて居らるゝのでないことは今まで申上げて來ましたことによつて十分お分りであらうと存じます。最も私共はお子さん方がある人が行くのに私が行かれないと言ふやうな感じを持たれてもそれでいゝと思ひます、なせならこゝが既に教育なのであります。何でも彼でも他人と同じやうにすべてのことをしなればならぬといふことは決して無いのであります、子供にしましても随分弟が何處かへ連れて行つて貰ふのに姉さんは家に残つてゐてお留守居をするといふやうな場合もあるのであります、而してこのおとなし

くお留守をするといふことは既に立流な教育を受けてゐることになるのであります。當幼稚園は幼稚園としての敷地はそんなに廣くはありませんが本校内の他の部分は廣いのであります、幼稚園に來てゐるお子さん方は監督者に連れられて本校内の各所へ遊びに行くことが出来るのでありますしかしこの方々へ遊びに行く幾人かのお子さんのある一方で同じ組の他のお子さん方は室内で粘土なり紙なりを以つて一生懸命に自分の仕事に熱中して居るのであります。結果は問ひません、たゞこの一生懸命といふことが必要なのであります。一旦何事かに取り掛つたならばもう決してそれが出來上るまでは他へ氣を散らさないやうにして、好かれ悪かれ、それを完成するといふ風にしたいと思ひます。今日のお子さん方の大なる缺陷はこの何事にまれ熱中することの少いといふことにあるのでありますから、この點が餘程重大なものとなつて來るのであります。この一生懸命といふことに都合のいゝといふ點からいふと幼稚園は家庭の靜かな一室にはとても及ばないのであります。この點から幼稚園を批難する人さへもある位であ

ります、これは一應尤もなことでありまして幼稚園が五人乃至十人位を入れる室をいくつも持つてゐて各室に熟練せる保母が附添ふことが出来るといふやうな理想的なものとなり得るならばいざ知らず。さもないならばこの批難には相當の根據のあることを認めないわけには行かなくなるのであります。斯ういふわけでありますから幼稚園では

努めてお子さん方に物事を行ふに際してそれに集中し得る熱心になり得る素地を作らんとして居るのであります。しかしいろ／＼實際上の都合がありまして一組の幼児數を三十名としてありますので斯ういふ集中を要する遊びや何かを行ふに際しては何時も同じ組のお子さん方を幾つにも分けて行ふといふことにして居るのであります。(未完)